

## 九州臨床心理学会 第53回 宮崎大会 大会テーマ：クライエントの役に立つ心理臨床 ご案内（第2号通信）

皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

九州臨床心理学会第53回宮崎大会は「クライエントの役に立つ心理臨床」を大会テーマとして3月6日（金）から8日（日）の日程で宮崎市内にて開催いたします。

大会テーマに基づきシンポジウムと3つのワークショップを企画しました。いずれも心理職者が専門家としてクライエントとどのように向き合っていくかという心理職者自身の在り方を考えていくことを意図しています。

事例研究については当初9ケースを予定していたのですが私の力不足で8ケースのお申し込みにとどまりました。しかしながらいずれのケースも大会テーマに即した自分自身のケースとのかかわり方について振り返ろうとするものとなっています。発表者の方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。

本大会が多くの方にご参加いただき、「クライエントの役に立つ心理臨床」について考えていく場となることを期待しています。

また、大会2日目（3月7日）12時からの総会におきましては、地区委員会より今後の九臨心の在り方を考える大きな提案をする予定です。そちらの方にも多くの方のご出席をお願いいたします。

九州臨床心理学会第53回宮崎大会

大会長 柳田 哲宏

### 1. 会期

2026（令和8年）年3月6日（金）～3月8日（日）

### 2. 会場

宮崎市民プラザ4F URL <https://www.siminplaza.com>

〒880-0001 宮崎市橘通西1丁目1番2号 TEL 0985-24-1008

※宮崎市役所の敷地内の施設です。

※交通アクセス及び駐車場及び料金等については「宮崎市民プラザ」のホームページをご覧ください。

### 3. 日 程

3/6 (金)			受付 13:00~	ワークショップ 14:00~17:00		地区委員会 17:00~18:00
3/7 (土)	受付 9:15~	事例研究① 10:00~12:00	総会及び昼休み 12:00~13:30	事例研究② 13:30~15:30	事例研究③ 15:45~17:45	◎交流会 19:00~21:00
3/8 (日)	受付 9:15~	大会シンポジウム 9:45~12:00		閉会 12:00~12:15		

※各県心理師（士）会の会長会は、3月7日（土）総会後、「小会議室1」にて行います。

※地区委員会を3月6日（金）WS後、「中会議室」にて行う予定です。

#### 3月6日（金）14:00~17:00 <ワークショップ>

##### ① 問題解決しない事例検討会（心理師士以外の方でも、本 WS のみの参加は可能です。）

・講師：西念 奈津江 先生

HARP（北陸アディクションリカバリー・パートナズ）、北陸 HIV 情報センター

令和7年度厚生労働省「依存症に関する調査研究事業」

「ギャンブル問題を含めた依存症支援のための新しい地域連携モデルの効果研究」（通称：サクマ班）

研究協力者 西念 奈津江（さいねん・なつえ）

##### 〈概要〉

本検討会は、日本福祉大学の田中和彦さんが開発した、クライエントに対する「仮説生成」を目的とする事例検討会です。年がら年中何かと行き詰まっている私たちサクマ班が、その普及啓発と効果検証にジタバタ取り組んでいます。本検討会では、クライエントとのかかわりの中で日々生じる「なんで?」「どうして?」「わけわからん!」について、その背景に一体クライエントのどんな思いがあるのか、「ああかもしれない」「こうかもしれない」と仮説を立てます。仮説を立てておしまいなので、実に無責任な取り組みです。関西弁でいうところの「知らんけど」です。私たちは「寸止めのススメ」と呼んだりしています。

この「寸止め」がなかなか難しい、という声を聞きます。なぜでしょうか。おそらく私たちが普段、無意識のうちに、その先まで進んでしまっているからではないかと思います。仮説がいつの間にか「きっとそうだ」という確信となり、「だったらこうしよう」と方針が立ち、支援者間での役割分担が決まる。そんな事例検討会やケース会議を、私もこれまで幾度となく経験してきました。あるいは、日々、目の前の火消しに追われ、そもそも仮説を立てるどころではないのかもしれません。そんなとき、本来問題解決の主体であるはずのクライエントは、いつもどこかに置き去りです。

私たちは本検討会を通して、あらためて、クライエントの尊厳と主体性を何よりも大切にする、というかかわりの原点に立ち返りたいと考えています。それは同時に、私たち自身の尊厳と主体性を守り、あるいは取り戻す、すなわち支援者自身にエンパワメントをもたらす営みでもあります。職種や肩書、経験の多寡を問わずフラットな立場でクライエントの生きてきた歩みに思いを巡らし、創造力を存分に働かせて仮説を立てるこの時間はきっと、問題解決思考にとらわれた私たちの頭と肩のコリをほぐしてくれることでしょう。

##### ② PCAGIP の基礎を学ぼう～PCA をより丁寧に～

・講師：クアモト 美穂 先生

大学時代は、伊藤博先生（ロジャース選集（上）（下）、ニューカウンセリング、人間中心の教育を実現する会会長）に学び、大学院では村山正治先生（PCA、EG、フォーカシング、スクールカウンセリング）および野島一彦先生（PCA、

EG)の研究室で PCA(Person-Centered Approach)について深く学ばれています。臨床活動としては、学校臨床、病院臨床、私設相談、SV、フォーカシングワークショップなど多様な場で PCA を大切にしながら活動されています。

#### 〈概要〉

PCAGIP (Person-Centered Approach Group Incident Process) は、PCA (Person-Centered Approach)に基づいた事例検討法です。このワークショップでは、PCAGIPについての理解を深め、体験的に学ぶ場を作ります。

開発者の村山正治先生は、「事例検討会で多くの時間を費やし作成したレジメで緊張する事例検討会に挑み、傷つく学生」を見て心を痛めていたことから PCAGIP を開発されました。ですから、「事例提供者」を中心として、大にする事例検討法です。解決することが目的ではなく、明日からその事例提供者が面接を行っていくためのエネルギーのようなものになる「ヒント」があれば良いということが貫かれています。面接をするのは「事例提供者」であり、助言する人ではありません。事例提供者が何を得られて行くのかは、その人のものです。それを PCA のグループで支えて行く事例検討法になります。

はじめに、事例検討の流れを説明し、実際に PCAGIP による事例検討を体験していただきます。その後、ファシリテーターとしてどのようにその場の器を作っていくか、またその際に PCA の考え方をどのようにアモト自身が行っているかを具体的にお話します。実際 PCAGIP を行うにあたって、どうしてもファシリテーターによって検討会の空間が左右されるからです。ここで PCA の全てを体験することは到底出来ませんが、インシデントプロセスという方法論だけではない PCAGIP の面白さについて学ぶ機会となると思います。そして、自分の中で考える PCA をどのような形で作り出して行くか考える機会となれたら嬉しいです。

最後に、PCAGIP は、PCA がど真ん中を走る大きな柱となっていますので、人間性心理学以外の学派でやってこられた方にとっては戸惑われるところもあるかもしれません。それでも、この機会に PCA に触れてみよう、体験してみようと思われる方はどうぞご参加ください。

### ③ 心理臨床とアドボカシー実践における自己省察ワーク

・講師:蔵岡 智子 先生

東海大学文理融合学部准教授

北海道大学大学院 教育学研究院 附属子ども発達臨床研究センター 研究員

熊本県臨床心理士・公認心理師協会 倫理担当理事

編著書:『心理支援における社会正義アプローチ入門 不公正の維持装置とならないために』

和田香織・杉原保史・井出智博・蔵岡智子(編著) 誠信書房

論文:蔵岡・井出(2025)スクールカウンセラーはアドボカシーにどのように取り組んでいるのか,日本教育カウンセリング研究,13,9-19

#### 〈概要〉

近年心理支援において人権を重視する流れはますます強くなり心理支援におけるアドボカシー(権利擁護)が注目されています。心理支援におけるアドボカシーとは、すべての人が公平に資源にアクセスできる公正な社会を目指す社会正義を達成するために心理支援者が取る行動のことを指します。クライエントの思いを代弁するといった個人レベルの実践から、クライエントの権利を保障するため学校や会社などの組織の仕組みに働きかける実践、より大きな視点に立ち社会全体の制度に働きかける実践もあります。

アドボカシー実践においては、心理支援者自身も社会の一員として、さまざまな規範や価値観を内面化しているため、それらを無自覚に「普通」だと捉えてしまい支援につなげてしまう危うさがあります。このような認識では、マイノリティや社会の既存の枠組みの周辺に追いやられた、すなわち周縁化されたクライエントへの支援が、偏ったものや一方的なものになりかねません。たとえば、貧困の中で生活している人々は、経済的な理由から教育や医療などの社会的資源へのアクセスが制限され、排除されてしま

まうことがあります。このような状況にあるクライエントに対して、支援者が自らの「普通」を基準にして支援を行うと、本人の抱える困難や背景を適切に理解できず、結果としてクライエントをさらに孤立させてしまう可能性があるのです。そのため、支援者には、自らが内面化している価値観を省察し、周縁化された立場にあるクライエントの視点に立って支援を行う姿勢が求められています。心理支援者の自己省察はアドボカシー実践の基盤となるものなのです。

本ワークショップでは、アドボカシー実践の前提となる心理支援者の自己省察に焦点を当て、個人のアイデンティティを見つめ直すワーク、経済的価値観を例に自身の価値観や偏見に気づくワーク、個人の社会化のプロセスを振り返るワークなどを行います。心理支援者自身が持つ前提を棚卸し、批判的に問い合わせ直す作業は時に否認や戸惑いを伴うことでしょう。それを学びのチャンスと捉え、自己省察のきっかけをつかんでもらえたらと思います。

### 3月7日(土)10:00~17:45 <事例研究>

#### 事例研究① 10:00~12:00

A	阿部 奈緒子 (社会医療法人如月会 若草病院) 【宮崎】	慢性化した統合失調性陰性症状を抱えた中年男性の事例
B	山田 梢 (福岡市子ども総合相談センター) 【福岡】	母に対してアンビバレントな感情を抱く小2女児との面接

#### 事例研究② 13:30~15:30

C	壹岐 優美 (社会医療法人筑水会 筑水会病院) 【福岡】	CIの話を待つことで深める心理面接 “聴く”というThの在り方について
D	高岡 志津代 (福岡刑務所) 【福岡】	中米ベリーズの少年院における心理支援の実践 ～非行臨床と多文化共生の視点から～
E	信國 知恵 (医療法人社団堀川会 堀川病院) 【佐賀】	枠を揺さぶられる状況が続き中断に至った心理面接過程の一考察 ～子どもの不登校解決から母親の個人面接に移行した事例～

#### 事例研究③ 15:45~17:45

F	立石 千晶 (社会医療法人社団至誠会 木村病院) 【福岡】	最期のことを気にしていた60代がん患者のケース
G	細川 佳博 (心理臨床相談室りんごの木) 【佐賀】	あらためて「主訴」って何だろう? ～人間関係を契機に来談した事例～
H	上畠 菜月 (NPO法人カラザ 学齢期療育相談・支援事業所いーずⅢ) 【宮崎】	登校渋りのあるASD中学女子生徒との言語面接

## 3月8日(日)9:45~12:00 <大会シンポジウム>

『心理のお作法～クライエントの役に立つ臨床を行うために／心理臨床の基礎の基礎～』

話題提供 丸山 悠子(社会医療法人 如月会 若草病院)【宮崎】

山根 佳代子(社会福祉法人 再生会 児童養護施設 さくら学園)【宮崎】

指定討論者 本山 智敬(福岡大学人文学部 教育・臨床心理学科)

司 会 柳田 哲宏(宮崎カウンセリングセンター)

### <企画主旨>

心理職への社会的要請は年々増しており、それに伴いその専門性も厳しく問われています。一方で“心のケア”という名のもと様々な案件に慌ただしく追われている方も少なくないのではないでしょうか。そういう状況では自らの臨床活動を振り返る余裕もなく目の前の仕事を“こなす”ことに精一杯にならざるを得ない現実もあるでしょう。

本シンポジウムでは心理職の専門性を担保するための手立ての一つとして“心理臨床の基礎の基礎”について考えてみたいと思います。

以下のようなことについてフロアの皆様と議論を深めていければと考えています。

- ・クライエントと関わる際に心がけるべき態度、振る舞い、心構え(=心理のお作法)について考える
- ・クライエントと自分自身との関係性を常に振り返りながら関わっていくことについて考える
- ・自分自身の関わり方を常に振り返りながら関わっていくことについて考える
- ・クライエントの可能性を広げていくための話のきき方や関わり方について考える
- ・クライエントと関わる際に感じる困難さを乗り越える工夫／臨床での実践知について考える
- ・その上で『心理の専門性』について考える

専門職である参加者の皆さまからすれば「何を今さら」という話しかもしれませんが、自らの臨床活動を今一度振り返ってみる機会になればと考えています。フロア参加の皆さまから多くのご意見、ご示唆等がいただけることを期待しております。

## 4. 大会参加費

九州臨床心理学会員 5,000 円、同非会員 6,000 円、大学院生 1,000 円

★WS①(問題解決しない事例検討会)のみ参加 1,000 円

※会員とは、「九州臨床心理学会」の会員であり、各県の心理師(士)会の会員とは異なります。

※本学会入会希望の方はホームページのお問合せ <http://kyurinshin.org> を参照ください。当方より各県の地区委員より連絡し、各地区委員より連絡を差し上げます。

※非会員及び大学院生は、臨床心理士及び公認心理師など臨床心理関連業務に携わるか、関連する研究科・専攻に所属し、守秘義務を遵守できる方に限定させていただきます。

## 5. 交流会

会 場：ホテルメリージュ 3F 「鳳凰の間」(大会会場より徒歩 13 分)

参加費：5,000 円(飲み放題込) 立食形式 (中華料理)

## 6. 大会及び交流会参加申込

参加申込みは、以下のイベントペイの URL もしくは QR コードより申し込みフォームにアクセスし、必要事項をご記入の上、**2026年2月22日（日）**までにお申し込みください。なるべく早めのお申し込みのご協力をお願いします。



<イベントペイの URL>

[https://eventpay.jp/event\\_info/?shop\\_code=5002114725887967&EventCode=P218464335](https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=5002114725887967&EventCode=P218464335)

## 7. 大会及び交流会参加費振込方法

上記のイベントペイにより併せてお願いします。なお、システム利用料 220 円をご負担いただきますが、ご了承ください。

## 8. その他

※本大会は日本臨床心理士資格認定協会の教育研修機会としての承認学術団体として認定されており、臨床心理士資格更新ポイントの取得ができます。

※日本公認心理師協会（専門認定公認心理師資格）については、ワークショップ限定ですが、「テーマ別研修」登録申請中です。

## 9. 大会に関するお問い合わせ（事務局）

下記にお願いいたします。

九州臨床心理学会第53回宮崎大会準備委員会事務局

E-mail : [info@kyurinshin.org](mailto:info@kyurinshin.org)

郵 送：〒880-0015 宮崎市大工3丁目342番地 2F

一般社団法人 STEP UP 三角 健 宛て